

《事務連絡》

令和元年9月9日

事業実施主体 各位

公益社団法人沖縄県糖業振興協会
事務局長 金城 吉 治

令和元年度 病虫害発生予察特殊報(第5号)について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本協会事業にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和元年度病虫害発生予察特殊報第5号(ツマジロクサヨトウ)が令和元年9月4日に沖縄県病虫害防除センターより発表されました。

ついては、さとうきび増産基金実施要領(平成25年2月26付け生産第2827号農林水産省生産局長通)別記1の第1の1(3)の「病虫害防除所から発生予察注意報、警報又は特殊法が発出された地域」に基づきセーフティネット事業を発動することを決定しましたので、下記の事項により早期の病虫害防除のための農薬購入等、当該事業着手に向けた事業申請をお願いします。

記

- 1.発令月日：令和元年9月4日
- 2.発動地域：沖縄県全地域を発動対象とする。
- 3.事業内容：【個別対策】 6月28日以降の事業を対象とする。
【共通対策】 9月 4日以降の事業を対象とする。
- 4.提出期限：令和元年9月30日(月)
- 5.問い合わせ先

公益社団法人沖縄県糖業振興協会

TEL 098-882-6400

FAX 098-882-6402

担当 友寄千成、金城秀典

元政統第 834 号-1
元生畜第 715 号
令和元年 9 月 6 日

公益社団法人沖縄県糖業振興協会
理事長 島尻 勝広 殿

農林水産省政策統括官付地域作物課長
生産局畜産部飼料課長

さとうきび（原料用）におけるツマジロクサヨトウの発生について

このことについて、別添のとおり各関係県に通知されておりますのでお知らせします。つきましては、本虫に対して迅速かつ的確な防除を実施するため、内容をご了知の上、関係者への周知徹底をお願いします。

(写)

元政統第 834 号-1
元生畜第 715 号
令和元年 9 月 6 日

九州農政局生産部長 殿
内閣府沖縄総合事務局農林水産部長 殿

(農林水産省※1) 政策統括官付地域作物課長
生産局畜産部飼料課長

さとうきび(原料用)におけるツマジロクサヨトウの発生について

これまで、飼料用トウモロコシほ場、未成熟トウモロコシほ場及び飼料用ソルガムほ場で、ツマジロクサヨトウが確認され、「ツマジロクサヨトウ対策について」に基づき防除対策を着実に実施していただくとともに支援策について管内都道府県に対し、周知徹底をお願いしてきたところです。

今般、さとうきび(原料用)ほ場でツマジロクサヨトウが確認され、別紙のとおり、消費・安全局植物防疫課長から「さとうきびにおけるツマジロクサヨトウの発生について」の周知依頼がありました。

つきましては、本虫に対して迅速かつ的確な防除を実施するため、下記について、内容をご了知の上、貴局管内の関係県に対し、周知徹底をお願いします。

記

1. 今般、「さとうきびにおけるツマジロクサヨトウの発生について」(別添1)が取りまとめられ、農林水産省のウェブサイトに掲載されました。本資料を参考にした本虫の防除対策の着実な実施をお願いいたします。
なお、さとうきび(原料用)ほ場でツマジロクサヨトウの発生が確認された場合、当該地域のさとうきび(原料用)のみを植物防疫法第29条第1項の防除の対象としていますが、同一地域内に飼料用さとうきびが作付けされている場合には、飼料用さとうきびほ場でツマジロクサヨトウが発生していないかを十分に注意するよう、貴局管内の関係県に周知をお願いいたします。
2. 防除対策の実施にあたっては、持続的生産強化対策事業のうち、国内初発生病害虫の初期まん延防止緊急対策事業(別添2)のほか、沖縄県病害虫防除技術センターから病害虫発生予察特殊報が発出されており、沖縄県全域のさとうきび(原料用)でさとうきび増産基金(別添3)が活用できますので、周知をお願いします。

(施行注意)

- 1 (農林水産省)※1は、内閣府沖縄総合事務局宛てに付す。
- 2 別紙(元消安第2227号)は施行先毎の農政局宛分の写しを添付する。

(令和元年9月4日 農林水産省植物防疫課作成)

さとうきびにおけるツマジロクサヨトウ防除対策について

本年国内で初めて発生が確認されたツマジロクサヨトウについては、現在のところ、飼料用とうもろこしの生産ほ場を中心に、一部のスイートコーン（未成熟とうもろこし）、飼料用ソルガム及びさとうきびの生産ほ場において発生が確認されています。

さとうきびにおける本虫による被害を抑制するためには、早期発見、早期防除が必要です。

このため、次の防除対策を実施するようお願いします。

1. 防除対策

(1) 早期発見

生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられることから、生産ほ場を定期的な見回りを行い、早期発見に努める。

(2) 早期防除

本虫の発生が確認された生産ほ場では、農薬リスト（別紙）を参考に農薬による防除を実施する。散布にあたっては、新葉の葉鞘基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかりと散布する。

なお、周辺作物への農薬の飛散（ドリフト）には十分注意する。

(注) 農薬の使用に当たり、不明なことがある場合には、病害虫防除所や普及指導センター等関係機関に相談ください。

(3) 収穫後の対応

本虫が残株及び土壌中に幼虫及び蛹の形態で残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕耘を行う。

なお、株出し栽培等により、収穫後に耕耘しないで同一生産ほ場で継続して栽培する場合には、農薬散布による防除を行う。

2. 前作に発生が確認された生産ほ場等における防除

(1) 本虫が土壌中に蛹の形態で残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕耘を行い、残存害虫を駆除してから新たに定植する。

なお、株出し栽培等により、収穫後に耕耘しないで同一生産ほ場で継続して栽培する場合には、農薬散布により予防的防除を行うとともに、定期的な見回りによる早期発見に努める。

(2) 生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられることから、生産ほ場の定期的な見回りを行い、早期発見に努め、発生を確認したら直ちに農薬散布を行う。

(3) 前作に発生が確認された生産ほ場の周辺生産ほ場においても、定期的に見回りを行い、早期発見、早期防除に努める。

「ツマジロクサヨトウ」に注意

夏植のさとうきびで発生

- ・南北アメリカで発生以降、アフリカ、アジアまで**発生範囲を拡大中**
 - ・アフリカでは、とうもろこしに甚大な被害
 - ・日本では本年7月に、**九州・沖縄で初めて発生を確認**
 - ・飼料用とうもろこしで多く発生していましたが、8月に**夏植のさとうきびでも被害が確認**されました
- 南北アメリカ→アフリカ→アジアへと拡大

ツマジロクサヨトウの特徴

飛翔距離が長い、
繁殖力が強い



- ・気流に乗って長距離移動する
- ・1回の産卵数は150~200個
- ・生涯産卵数は最大1000個



・幼虫が葉、茎、子実を食害

幼虫の食害による被害



多発すると被害が大きくなるおそれ！！

早期発見・早期防除
が不可欠

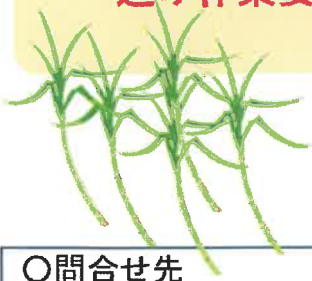


農薬散布による防除



被害の拡大防止のため、

- ✓ さとうきびのほ場を確認し、疑わしい害虫を発見した場合は、**速やかに問合せ先までご連絡ください**
- ✓ 発生が確認されている地域（※）では、**農薬の散布**を検討してください
- ✓ 病虫害発生予察特殊報等で指定された地域では、**農薬の散布、深耕すき込み作業委託等**に関して、さとうきび増産基金による支援があります



(※) ツマジロクサヨトウに関する情報はこちらで確認
(http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)



〇問合せ先

〇〇県農林水産部〇〇課〇〇係

電話：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇 FAX：〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇

アクトシート、【病害虫の名称：ツマジロクサヨトウ】を参照して下さい。



図1 サトウキビ発生ほ場（新植夏植）



図2 サトウキビ食害痕

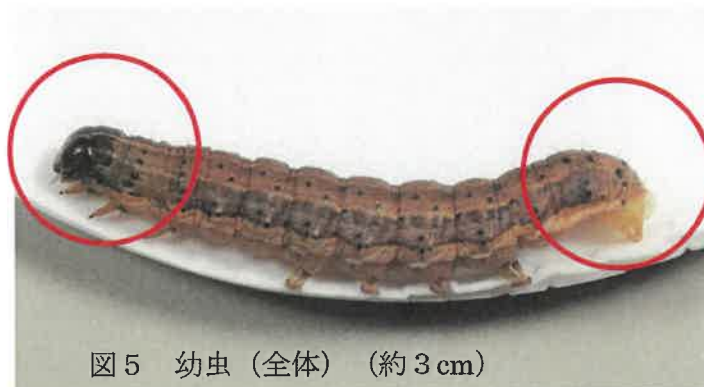


図5 幼虫（全体）（約3cm）

図3 ソルガム発生ほ場

図4 ソルガム食害痕



図6 幼虫（頭部拡大）

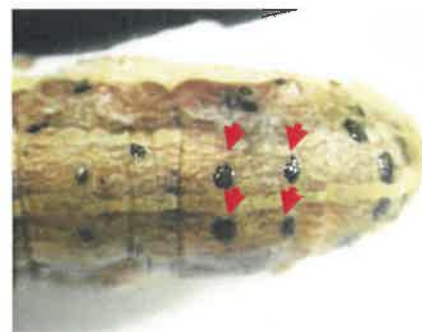


図7 幼虫（尾部拡大）

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：（本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933

ホームページアドレス：<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojo/index.html>

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成 31 年度病害虫発生予察特殊報第 5 号を発表したので送付します。

平成 31 年度病害虫発生予察特殊報第 5 号

- 1 害 虫 名 : ツマジロクサヨトウ
- 2 学 名 : *Spodoptera frugiperda*
- 3 発生地域 : 石垣島
- 4 発生作物 : サトウキビ、ソルガム

5 発生確認の経緯

2019 年 8 月 28 日に石垣島のサトウキビほ場（新植夏植）及び 8 月 30 日に同島緑肥用ソルガムほ場で、ヨトウムシ類幼虫および食害が確認され、那覇植物防疫事務所に同定依頼した結果、9 月 3 日にツマジロクサヨトウと確認された。本種によるサトウキビでの被害は国内初である（写真 1、2）。ソルガムは、鹿児島県、宮崎県に次ぎ、3 例目である（写真 3、4）。

本種は南北アメリカ原産で、2016 年にアフリカ大陸で発生が確認された後、アフリカ中南部のほぼ全域に分布が拡大し、2018 年までにインド、スリランカ、バングラディッシュ等の南アジア、2019 年には中国でも発生が確認された。国内では、2019 年 7 月 3 日に鹿児島県で初確認され、本県では 7 月 12 日に沖縄本島（飼料用トウモロコシ）で発生が確認された。

6 被害

- (1) 中米・ニカラグアの調査では、本種による肥大期から成熟期のトウモロコシへの加害が 55～100%である場合、収量が 15～73%低下するという報告がある。
- (2) 本種は、幼虫が新葉の葉鞘部を食害する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。

7 形態及び生態

- (1) 形態：終齢幼虫は体長約 40mm で頭部の複眼と前額の境界に淡色の逆 Y 字状模様および尾部の黒色斑点の特徴である（図 5～7）。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、メスの体毛で覆われる。
- (2) 寄主植物：本種の寄主範囲は極めて広い。主な寄主植物は以下のとおりである。
アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ、ソルガム等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション等）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）など。

8 防除対策

- (1) 現在のところ、石垣島のみで発生が確認されているが、多発すると被害が拡大する恐れがあることから、沖縄県の他の地域においても、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見・早期防除に努める。発生ほ場においては、別紙に指定する薬剤の散布を行う。
農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散（ドリフト）に留意する。
- (2) 新植サトウキビの幼梢は、粒剤有効成分の浸透までに期間を要することから、本種発生時は、散布剤等による防除を行う。
- (3) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに耕耘する。
※農林水産省によると、本虫は、これまで国内で発生しているヨトウムシ類と同様、的確な防除の実施により被害の軽減が可能であると考えられています。
- (4) 生態などの詳細については、農林水産省ホームページ、侵入を警戒する病害虫に関するフ

ツマジロクサヨトウに対しては 以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数、使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○サトウキビ

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BPMC・MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
BPMC・MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
BPMC乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEPマイクロカプセル剤	散布	収穫90日前まで	-	500～1000倍	4回以内
MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
カルボスルファン粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6～9kg/10a	1回
カルボスルファン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回
クロチアニジン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2500倍	3回以内
クロチアニジン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6kg/10a	1回
クロラントラニプロール・ジノテフラン水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
クロラントラニプロール粒剤	株元散布	生育期但し、最終培土まで		4～6kg/10a	1回
クロラントラニプロール粒剤	植溝土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
プロチオホス粉粒剤	株元処理土壌混和	生育期但し、収穫90日前まで		15kg/10a	2回以内
ベンフラカルブ粒剤	株元散布又は株元土壌混和	培土時		4～6kg/10a	1回
ベンフラカルブ粒剤	植溝土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(14459, 21694, 21695)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	-
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	-
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

適用農薬一覧 <ツマジロクサヨトウ>

商品名	農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用料	本剤の使用回数
スミバツサ乳剤	BPMC・MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
スミバツサ粉剤	BPMC・MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
バツサ乳剤	BPMC乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
スミチオンMC	MEPマイクロカプセル剤	散布	収穫90日前まで	-	500～1000倍	4回以内
スミチオン乳剤	MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
スミチオン粉剤	MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
アドバンテージ	カルボスルフファン粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6～9kg/10a	1回
アドバンテージ	カルボスルフファン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回
ダントフロアブル	クリチアニジン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2500倍	3回以内
ダントツ粒剤	クリチアニジン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6kg/10a	1回
キックオフ顆粒水和剤	クロラントラニリプロール・ジノテフラン水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
サムコルフロアブル10	クロラントラニリプロール水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
プレバソン粒剤	クロラントラニリプロール粒剤	株元散布	生育期但し、最終培土まで		4～6kg/10a	1回
プレバソン粒剤	クロラントラニリプロール粒剤	植溝土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
プリンスベイト	フィプロニル粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6kg/10a	1回
プリンスベイト	フィプロニル粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
トクチオホス粉粒剤	プロチオホス粉粒剤	株元処理土壌混和	生育期但し、収穫90日前まで		15kg/10a	2回以内
オンコルOK	ペンフレカラルブ粒剤	株元散布又は株元土壌混和	培土時		4～6kg/10a	1回
オンコルOK	ペンフレカラルブ粒剤	植溝土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回

ツマジロクサヨトウとは

【分布】

北米～南米、アフリカ（エジプト、サハラ以南）、アジア（インド、中国、台湾、韓国、タイ、ミャンマーなど）。

【寄主植物】

アブラナ科（カブ等）、イネ科（イネ、トウモロコシ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション等）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）などの広範囲な作物

【形態・生態】

成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、オスのみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋を持つ。終齢幼虫は体長約40mm。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、メスの体毛で覆われる。本種は暖地に適応した種（南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産）であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。

【被害】

幼虫が植物の葉、茎、花並びに果実を加害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。



図1 ツマジロクサヨトウ (♂)



図2 ツマジロクサヨトウ (♀)



図3 ツマジロクサヨトウ (幼虫)

「ツマジロクサヨトウ」の特徴

特徴

- 幼虫は大きくなると体長約 4 cm, 体色は下の写真のように変化があります。
- 頭部には網目模様があって「逆Y字」に見えます。
- おしり側に褐色や黒色で盛り上がっている部分があります。
- 若齢幼虫は区別できない場合があります。

[1] 被害の状況

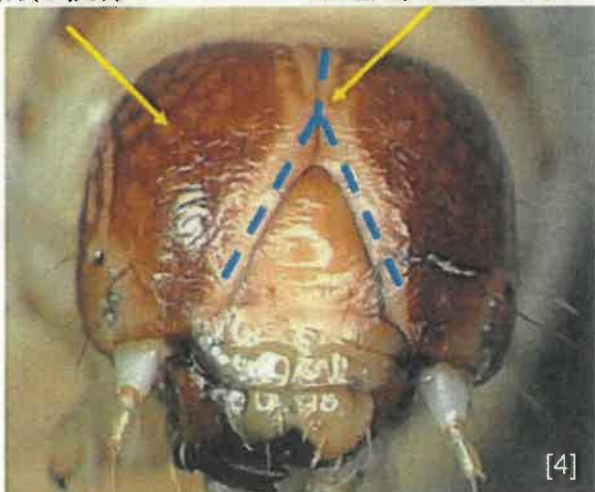


[2]



網目模様

淡色部は逆Y字状



刺毛基板は大きく、盛り上がる

